

7年前に導入したテレビ会議システム。全国の支店とのコミュニケーションも円滑に



社員が当事者意識を持って自ら行動

株式会社 建設ドットウェブ

生産性を上げ 収益を確保

建設ドットウェブでは、建設業向けのソフトウェアの開発・販売と経営コンサルティングを手がけ、見積もりから原価管理、請求までの複雑な業務を一元化した原価管理ソフトウェアとして現在、業界トップクラスの地位を築いている。

同社では企業理念に、“社業の繁栄と社員全員の幸福の実現を図る”を掲げており、働き方改革もこれがベースとなっている。三國浩明社長は「会社の業績はもちろん、家庭環境が整っていないと充実した仕事はできない。普段支えてくれている人への感謝の気持ちが働き方改革の基

本だ」と“家庭幸福”の重要性を強調する。

働き方改革を具体的に進めるにあたって、まず取り上げたテーマが「生産性の向上」だ。同社では5年前に各部門の損益を明らかにする仕組み「部門別採算」を導入し、今期からは京セラ創業者の稲盛和夫氏が創り出した「アメーバ経営」を経営の柱に据えた。

アメーバ経営は、各部門が中心となって計画を立て、それぞれの目標を達成していく経営手法だ。部門ごとに生産性を上げていくことが求められることから、社員全員が自主的に経営に参加しようという意識が醸成される。

さらに、2017年12月から若手社員を中心に構成するワーキンググループを設置し、各部門長とともに業務改善に取り組んでおり、生産性を上げながら収益を確保していく考えだ。

テレビ会議を活用して プレゼンテーション

同社では、働き方改革を推進する上で、社員同士が互いに理解を深め、コミュニケーションを活性化させることが大切であると考え、2017年10月に渥美由喜さんを講師に招き

「生産性向上のためのコミュニケーション研修」を開催した。同研修で学んだ「Good & New」という組織活性化の取り組みを、現在総務部で実践している。「Good & New」は、朝礼時に持ち回りで「自分の感じたこと」や「良かったこと」を発表し、他の社員は発表に対してコメントするもの。同部の門舞リーダーは「一人ひとりの考えを聞くことで、普段の仕事では分からない同僚の新しい一面を知ることができ、部内の雰囲気良かった」と話す。

また、新たなツールでの改善にも積極的だ。例えば、営業部門で多くの時間を費やすのが「見積書作成」と「移動時間」だ。その改善に向けて、まず見積書の自動化システムを社内開発した。上司と営業アシスタントのチェックが必要なくなり、作成時間も3分の1に短縮された。さらに、2018年2月からは、顧客への個別訪問に加え、テレビ会議を活用したプレゼンテーションを実施。これにより、遠方の顧客に素早く対応でき、移動の負担軽減にもつながっている。

三國社長は「社員には会社が現状よりも良くなるため何が改善できるかを考え、積極的に行動してほしい」と話し、会社と社員が力を合わせて働き方改革を推進していく考えだ。



顧客へのサービス提供を第一にしなが、社員の幸福の実現を目指す三國社長（左）と門舞リーダー

DATA

■所在地/金沢市鞍月4-115 金沢ジーサイドビル3F ■代表者/三國 浩明 ■設立/2001年
■従業員数/60名(男:42名/女:18名) ■事業内容/ソフトウェア開発・販売、コンサルティング